

育子屋NEWS

2020. 12. 1

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

日本の子ども達は幸福ではないの! ?

～「生活の豊かさ」＝「幸福」ではないのです～



みなさんは、『レポートカード 16—子どもたちに影響する世界：先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か（原題：Worlds of Influence: Understanding what shapes child well-being in rich countries）』というものをご存じですか？

いきなり難しい題名で始まった今回のNEWSですが、これは毎年ユニセフ（国連児童基金）が発表しているレポートで、一言で言えば「先進国の子どもの幸福度ランキング」のことなのです。

今年は9月3日に発表となったのですが、その結果がなかなか残念なものでした・・・。

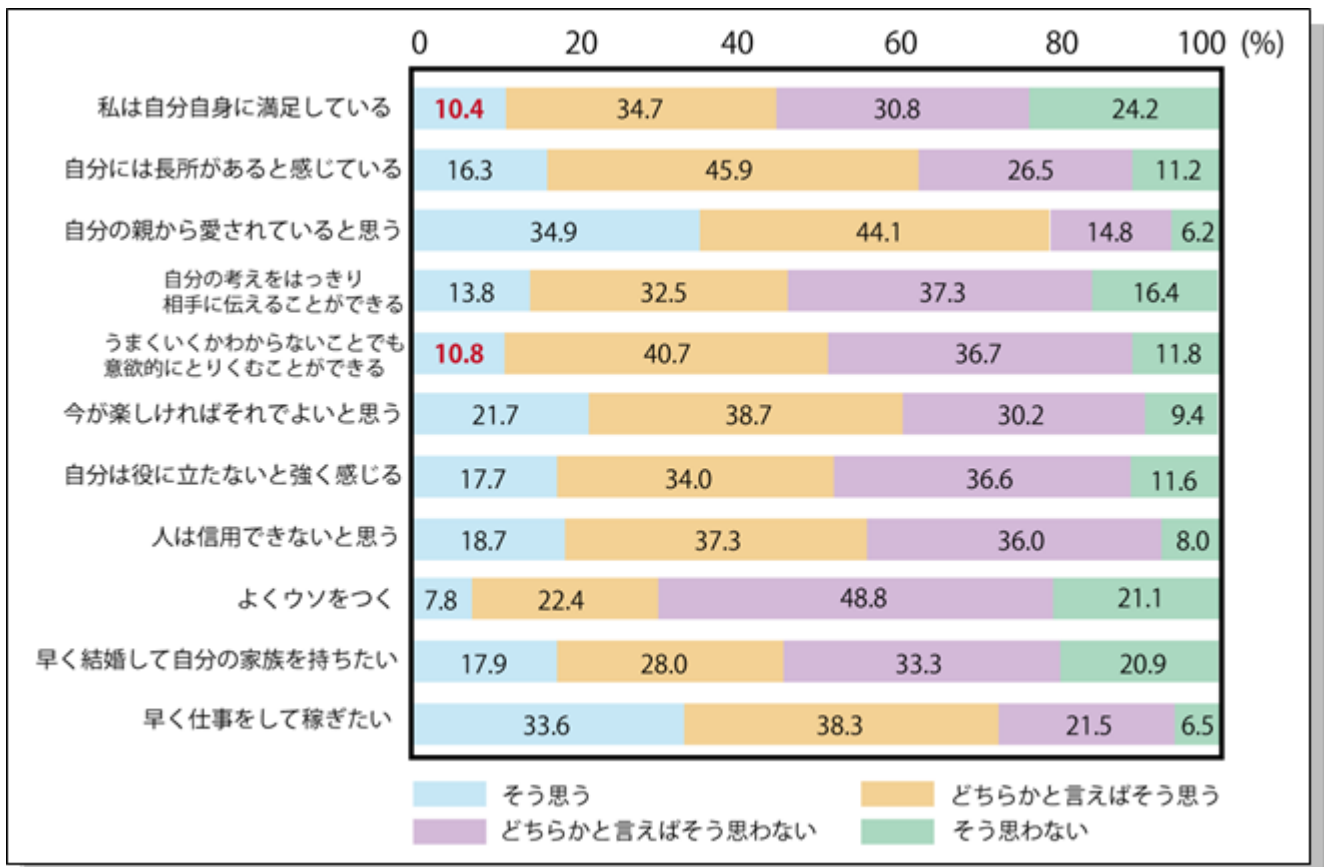
このレポートは先進38か国の子どもについて調査したものなのですが、日本は国民が保険に加入していることや医療レベルが高く死亡率が低いことから「**身体的健康**」という分野では**1位**を獲得しているのに対し、生活満足度が高いと答えた割合や自殺率の数値を比較した「**精神的健康**」は**37位とワースト2位**だったのです。

これだけ恵まれ、豊かな生活をしている日本の子ども達の精神的健康がなんとワースト2位! ?・・・今回は少し、子供たちの心の中を覗いてみたいと思います。

日本の子ども達、心の中はボロボロ! ?

ユニセフの調査によると、日本の15歳の子ども達に「今の生活の満足度」を0～10で評価してもらったところ、「5以下」と答えた割合は4割ほどあったそうです。（ちなみに総合1位のオランダは1割程度だったそうです）

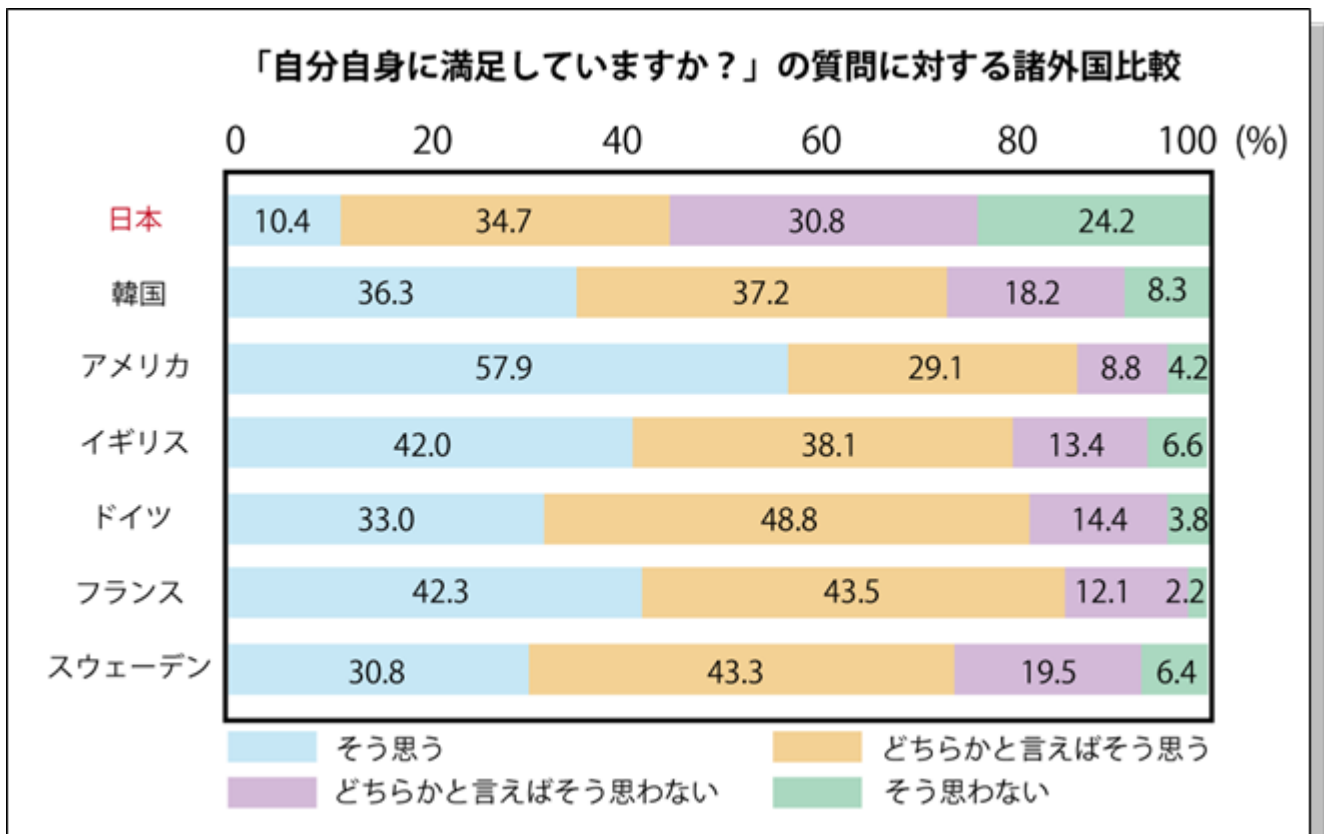
また、2019年に内閣府が公表した「2019年度子ども・若者白書」によると、「自分自身に満足している」という質問に対し「そう思う」・「どちらかと言えばそう思う」という肯定的な回答をした日本の若者（この調査対象は13～29歳の男女）は45.1%でした。つまりは、半数以上の若者が自分をどこか否定的にとらえているということが言えるのです。



「自分の親から愛されていると思う」の割合が高いのがせめてもの救いですね・・・。

しかし、「うまくいくかわからないことでも意欲的に取り組むことができる」の割合が低いのが気になります。なぜならこれからの時代はこの能力が特に求められるからです。

最初の質問「自分自身に満足している」すなわち**自己肯定感**は他国に比べても極めて低いということが以下の表からも見て取れます。日本はなぜ、自分に自信が持てない子が多いのでしょうか？



※一部合計しても 100%にならない箇所もありますが、内閣府の発表数値をそのままにしてあります
(上記 2 つのグラフは共に内閣府 2019 年度「子ども・若者白書」より)

サッカーの久保選手が選んだビジャレアルの指導とは？

10 歳で FC バルセロナのカンテラ（育成組織）の入団テストに合格した久保建英選手。今年の 8 月にビジャレアルへの期限付き移籍が発表されましたが、このビジャレアルの指導法が話題になっているそうです。

ビジャレアルのカンテラは「欧州で最も堅実な育成機関」と評されているそうですが、その指導改革をけん引してきたスタッフの一人が、佐伯夕利子さんという日本人女性です。

佐伯さんを含む総勢 120 人のコーチたちは、胸にアクションカメラを付け、子供たちへの声掛けや、どのタイミングでどこを見ているのか、何に注目して指導しているのかが分かるように記録しました。その後そのビデオを見てコーチ同士で「ここはこうした方が良い」など、お互いの指導の評価をし合ったそうです。

すると徐々にコーチによる指示・命令が減っていったのです。そして

「今のプレーはどう思う？」

と問いかけ、子供たちにフィードバックすることが重要だと気づき始めました。3 歳の幼児クラスでさえ「今、どうしてそこにパスをしたの？」と尋ねます。最初は黙って佇んでいるだけの 3 歳児も、だんだん説明し始めます。それについてコーチらは「そうなんだね」と承認するのです。

3 歳から意見を求められるビジャレアルの子ども達は、こうして考え、自己決定できるようになります。つまり誰かに言われた通りに動くのではなく、全て自分で選択するのです。(ただし注意すべきは自分で選択できる＝自由と、好き勝手は全く別物です。親として、ダメなことはダメ！としつけることが必須なのは言うまでもありません)

これはあるライターさんが書いた記事だったそうですが、特に小中学校の先生方から肯定的に受け止める反応が多かったそうです。

「日本の学校教育に足りないものがここにある」

「これをひとり一人の教師が自覚したら、すごいスピードで学校が変わる。」

「子どもを自走させるためには問いかけること、選ばせることが重要。でも、これが日本では本当に難しい」

この反応を見ると、子どもたちに選択させることの重要性が、日本の先生たちに周知されていることがわかります。しかし、子どもは先生や親の言うことを聞かなくては怒られるし、言われた通りのことをすれば褒められるのが現実です。

それが日本の子どもたちの今の姿なのです。

実のところ、私たち日本の大人は、子どもたちに選ばせていないのです。

自分で決めさせることが大事

育脳寺子屋では子供たち自身に「選択」をしてもらったり、「自分の考えを話してもらう」部分が多くあります。

例えば小学生は一日で学ぶ内容は決まっていますが、学ぶ順番やペースは各自が計画を立て学習を進めていきます。また育脳トライアルのような答えが一つでない問題の場合は「なぜこの答えにしたの？」と質問をして、その解答をした理由を教えてもらうのです。（極論で言えば答えが正解か不正解かということよりも、自分の考えを人に伝えるというプロセスの方が重要です）

自分で考えた順番で学習を進める→うまくいく→自分はできるんだ！という実感をする事となるので、**自己肯定感**が育まれます。

ちなみに自己肯定感は他人に褒められることで育まれるものではなく、自分が自分自身に対して満足した際に育まれるものなので、自身の成功体験が必要なのです。

親は我が子が可愛いものです。だから子供に失敗させないために、無意識のうちに子供が失敗しない方法や、うまくいく方法を子供が考える前に指示しがちです。

でもこれを繰り返していると、自分で考えず他人から答えをもらおうとするようになりますし、うまくいかなかった時に「だってお母さんがそうしろって言ったやん！私は言われた通りにやったし！」と、責任を他人に押し付けるようになります。

「自由」には「責任」が伴います。

私たちは小学生のうちに、何事も人任せではなく自分が決めて自分が行動に移さないといけないという気持ちを持ってもらいたいと考えています。

それができれば失敗も成長も自分の力だと感じることができ、自己否定する子になりませんし、精神的幸福度は増すに違いありません。結果、これから必要となる「うまくいくかわららないことでも意欲的に取り組むことができる」ようになるのです。

いま しあわ

あなたは今、幸せですか？

いきなりこんな質問をされたらびっくりしますよね。
物が溢れ、何不自由なく暮らせているのだから、幸せだと思いますが・・・。

「自分で考え、自分で決める」ことが幸せへの近道

ユニセフ（国連児童基金）の調査によると、日本の子供たちの精神的幸福度は先進国 38 か国の中で 37 位とワースト 2 位だったそうです。
理由を調べてみると、日本の子供は自分に自信を持っていない子が多いようなのです。

では、自分に自信を持つためにはどうしたらよいのでしょうか？それは「人に言われてではなく、自分で考えて行動に移す」ことが重要です。

誰でも親や先生に指示されたらやる気が無くなるし、やろうと思っていたことも辞めてしまいたくなります。でもやらなかったらまた叱られるから仕方なくやる。・・・でもそんなふうに言われたことを繰り返すだけでは、自分に自信なんてつくはずはないですし、幸せではないですよね？

だったら、親や先生に言われる前に自分で考えて、自分で行動するところに心がけてみませんか？それができるようになってきたら、自然と自信がつきますし、胸を張って「私は幸せ！」と答えられるようになりますよ。



偉人の名言

「指導者の仕事は、自分が「こうしろ」と言った

ことをやってもらうロボットを作ることではない」

佐伯 夕利子 ～サッカーの名門ビジャレアルの育成強化責任者～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。